

■カナダ・ビクトリアでホームステイで学ぶ 幼児教育現場の視察

＜出発時期を自由に選んで2名様から催行：現地6泊＞



＜現地費用＞ **228,000円** (航空券は含みません)
 ※ご希望の方には航空券(直行便)の手配もいたします。
※宿泊はホテル利用も可能です。¥275,000円(食事なし)
 ＜募集人員＞ 最少催行2名様から
 (現地が夏休みのときを除きます)

※現地費用は、そのときのレートにより変動する時もあります。具体的な日程が決まりましたら見積もりを出させていただきますので、遠慮なくお問合せください。また、毎年ゴールデンウィークにはグループでの視察を予定しています。

＜カナダの子育てについて＞

カナダでは、子育て支援と言うよりむしろファミリーサポートシステムが一番大きなプログラムになっています。子育ての方法がわからない両親には子育ての方法を教えたり、時には料理を教えたりすることもあります。また、移民者や家族のいない人が、ひとりにならないようにお互いにサポートし合える関係作りもプログラムに入っています。

さらにカナダ政府自体も幼児保育に重点をおき、お金がなくて十分なサービスが受けられないことがないように、補助金の中でも一番大きな事業となっています。

この視察に参加された方からは、「きめ細かい行政のバックアップが必要なことは元より、待ちの子育て支援から出向いていく子育て支援へ。様々な意見を取り入れつつ、どの階層や年代や人種の区別を越えて手が差し伸べられる相互扶助の精神は、やはり日本より先進国、という印象を受けました」とのメッセージをいただきました。

カナダは、日本より幼児の人権がしっかりと保障されていると言われていています。具体的にはどのようなことか、今回はビクトリアにしっかりと腰をすえて学びたいと思います。この機会に是非、ご参加下さい



	ひにち	活動内容	食
1	日曜日	カナダ・ビクトリア国際空港にて正午より受付開始 バンクーバー経由ビクトリア着、現地の担当者が迎えます *オリエンテーション。*ステイ先の方とご対面。 終了後ステイ先へ (ホームステイ)	機 F D
2	月曜日	■カナダ一般事情についてのレクチャー ■幼稚園訪問 *施設の見学と簡単な説明。質疑応答。 終了後ホームステイ先へ (ホームステイ)	B L D
3	火曜日	■ホームデイケア訪問、アクティビティーに参加 ■視察とレクチャー(子どもと一緒にランチを楽しむ) 終了後ホームステイ先へ (ホームステイ)	B L D
4	水曜日	■デイケアセンター(ドネーションで成り立っている歴史のある施設を訪問、子どもたちと交流) ■センター内学童保育の施設見学とレクチャー 終了後ホームステイ先へ (ホームステイ)	B L F
5	木曜日	■NPOデイケアセンター訪問、視察とレクチャー ■学校付属のデイケアセンター訪問。 施設の見学とレクチャー 終了後ホームステイ先へ (ホームステイ)	B L D
6	金曜日	*終日フリータイム *全体的な日程の調整日になることもあります OP:ゴールドストリームパーク、ブチャートガーデン 博物館訪問などをお楽しみください。 (ホームステイ)	B L D
7	土曜日	*帰国日(ビクトリア～バンクーバー経由で帰国) ---日付変更線通過---	B F 機
8	日曜日	☆成田着 税関通過後自動解散。お疲れ様でした。	機

企画：財団法人社会教育協会

ひの社会教育センター

電話 042-582-336 Fax 582-0647

〒191-0062 日野市多摩平4-3.

ホームページ：http://hino-shakyo.com

※航空券の手配について

当センターでは、航空券の手配を下記の旅行社にお願いしています。当センターに手配を希望される方はご連絡頂ければ手配いたします)

・自遊旅行 電話 0426-31-1166

〒192-0046 八王子市明神町3-2-5-4f

代表：若井寿人

※交通機関や現地の事情により視察や研修の内容が変更になる場合があります。

※この事業はビクトリア国際交流センター(VIEC)の全面的なご支援をいただいで実施します。

※施設への訪問などは徒歩や公共機関などを利用します。

※食事(B:朝食、L:昼食、D:夕食、F:自由食、機内：機内食)

※参加費の他に現地の福祉施設のみなさんとの交流会、訪問施設へのお土産等共通費として、別途5,000円程度お預かりすることがあります。

※ホテル利用の方で一人部屋追加料金は58,500円です。

ホテルはスタンダードクラス。

※ホームステイの申請料が別途20,000円必要となります。尚、この手数料は現地の規程によりいったん申請いたしますと返金できませんので予めご了承ください。

＜参加のおすすめ＞

日本の人口は2006年をピークに減りつづけると予想されています。そして、2100年頃の総人口は、約6000万人になると予測されています。つまり今の半分の人口になるという計算になります。

一方、日本人の平均寿命はどんどん延びていて、高齢化社会はますます進んでいます。この現象だけ見ると長寿社会の到来として喜び合いたいところですが、それとは逆に子どもの出生数は、今年が約120万人で、2015年頃には100万人を下回り、2050年頃には67万人になると予測されています。この現象は私達の予想をはるかに超えて少子化が進んでいることを裏付けています。この現象がこのまま進むと将来の日本はどうなっていくのでしょうか。

さて、今回訪問するカナダは建国当初より移民を受け入れている国ですが、カナダ政府はカナダ人の子どもも、移民してきた子どもたちも、将来のカナダを担う宝物として育てるために様々な支援やサービスを提供しています。

課題としては、日本と同じような少子化現象がありますが、子どもの人権をしっかりと保障しながら、子育て教育に積極的に取り組んでいます。この視察では保育や幼児教育の現場の実際を視察させていただき、日本の幼児教育に少しでもお役に立てればと願っています。

また、この様な事業を実施するには、現地のことに詳しい機関が必要不可欠な条件ですが、幸い私は、カナダのビクトリアに所在します、ビクトリア国際交流センター(VIEC)と出会うことができ、今回の『カナダに学ぶ幼児教育現場の視察』の事業を実施することが可能となりました。さらにこの事業は現地の幼児教育に関わる専門機関並びに専門スタッフのご協力をいただいて実現したもので、普通の視察とは一味違う中身の濃いプログラムでご案内できるものと自負しています。また、ビクトリアは世界五大美観都市のひとつといわれており、フリータイム等を活用してのビクトリア市内や近隣の公園の散策をはじめ、ブッチャートガーデンの訪問や、現地の皆さんとの交流をさせていただくなど、ビクトリアの豊かな子育ての実際に触れると共に、カナダの自然を満喫していただきたいと思います。この機会に、お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。(ひの社会教育センター：館長 中能孝則)



＜人間らしく育ち、生き、暮らすために＞幼児教育視察へのおすすめ

公立保育園園長：柿田雅子

ひたひたと押し寄せてくる少子・核家族の波。地域のかかわりと教育力が低下する中で、孤立と不安の子育てが顕著となり、その影響が子どもたちの育ちに表れてきています。みんなが生き生きと子育てにむかえる様にするためには、どのような取り組みをしたらよいか、そのヒントを得ようと、支援の歴史を持つカナダの子育て状況にアプローチしてみました。視察の旅から浮かび上がるカナダの人となり、ではない『国となり』は、次のようにまとめることができるでしょう。

- ◎ゆとりという豊かさ… 自然環境の尊重、子育て・教育・労働環境の整備
- ◎自立… 自分は自分、という考え方と、相手のそれをも大切にする考え方の徹底(「同じ」であることに安心を求める一方、成績と競争に色濃く支配される日本の社会との違い)
- ◎支援… 不足を補おうとする姿勢と積極的で豊富なメニュー
- ◎規制… モラルと社会的ルールの保護

短い期間でしたが、ビクトリアのさわやかな風にふかれ、花に彩られた町並みや人々に接して感じたことです。

人間らしく育ち、生き、暮らすためには、なにか大切かを知らされる思いがします。しかしながら、カナダでも貧富を問わず起る「虐待」や、若い層の子育てのスキルの低下は、大きな課題であることが率直に語られました。乳幼児の保育・教育や、子育て支援にあたる人の給料が、大変低いという状況もあります。日本の保育園に相当するデイケアセンターの子どもたちの昼食やおやつは、家からの持込でした。その子が食べるものは、その親の管理によるとの説明でしたが、こうしたことはどのように考えたらよいでしょうか。日本の保育が築いてきた良さも沢山あります。私たちの経験を大切に、付き合わせつつ方向付けることが必要であるように思われます。

とはいえカナダの子育て支援には、高校に保育園が設けられたり、30言語を擁する多くの民族の、それぞれの社会への支援など日本では到底考えられない事業が多くあり、学ぶべき内容にこと欠きません。今回、充分理解の及ばなかった就学前の保育・教育システムのあり方や、リソース(支援)センターの様子なども是非、知りたいところです。これからの視察に期待いたします。

子育て支援担当の州職員が、人々の困難を聞き取り、限られた財政事情のなかで施策に反映させようとする州の方針を紹介しながら「どの州より一番よい施策を持つ州になる」と言われました。感動しました。おそらく将来をも見すえた果敢なチャレンジであるといえるでしょう。大いに学ぶべき姿勢ではないでしょうか。

★グループデイケアセンター

グループデイケアセンターでは、生後30ヶ月(2歳半)から小学校入学まで、あるいは生後0ヶ月から36ヶ月の子どもを保育するための認可を受けている。

通常1年を通じて運営され、保育時間は朝7時ないし8時より夕方5時半か6時まで。また、パートタイムで受け入れるところもある。

*最大規模のグループサイズ

生後30ヶ月以上の場合：25名まで
3歳以下の場合：12名まで

*子ども数に対するスタッフの割合

生後30ヶ月以上の場合

子ども25名に対し、責任者1名。
アシスタント2名。

3歳以下の場合

子ども12名に対し、責任者1名。
アシスタント2名。

*職員は、最低10ヶ月間の幼児教育学修了者。

＜参加に当たって＞

■現地費用に含まれるもの

日程表に記載された、現地での団体行動中の視察、移動のための乗り物料金、オプションを除く観光料金、ホームステイ料金、日程に記載されている食事代、視察・通訳料金、随行員費用。

■視察費用に含まれないもの

電話代などの個人的費用、現地へのお土産代等の共通費、現地での交流会の費用、傷害、疾病に関する医療費、飲み物・自由食の代金、オプションの代金。現地までの往復航空券、旅券印紙代、渡航手数料、成田空港をはじめ各地空港施設使用料、燃料サーチャージ、航空保安税、日本国内における自宅から成田空港までの交通費。

■申し込み方法

申込書に必要な事項をご記入の上、ひの社会教育センターへ申し込んでください。

その際申し込み金¥30,000(現地費用に充当)が必要になります。申し込み金をいただいた時点でこの視察への参加が成立するものといたします。なお、残金は実施1ヶ月前までに下記の口座へお振込みください。

<振込先>

郵便振替口座：

00160-1-250007

加入者名：(財)社会教育協会
日野社会教育センター

■取り消しについての払い戻し

お客様はいつでも次に定める取り消し料をお支払いいただいで今回の契約を解除することができます。

視察開始日より起算して

60日前～31日前……参加費の20%

30日前～14日前……参加費の30%

13日前～07日前……参加費の40%

06日前～前々日……参加費の50%

前日……参加費の70%

出発日当日……参加費の100%

■最少催行人数

参加者が2名に達しない場合は今回の視察を中止することがあります。その場合は、1ヶ月前までにお客様にご通知いたします。

■視察についてのお問い合わせ

この事業の内容や、オプションの相談等がございましたら、遠慮なくお問い合わせください。(2011.1.8.作成)